合併までの経緯と新市の方向

（写真） 合 併 協 議 会

合併の主因

最近におけるわが国の産業経済の発展に伴い，水，道路，公害，交通等に対する行政は，市町村の区域をこえより広域的にしかも総合的に行なう必要性がでてきた。

そのためには，それぞれの自然的，社会経済的条件を考慮し，新しい行政需要を充足できるような規模能力をそなえた自治団体にきりかえ，効率的な行政運営のもとに地域住民の福祉向上をはかることが急務とされる時代となりました。

このことから，昭和40年3月「市町村の合併の特例に関する法律」が制定され，市町村行政の広域化の要請に対処し，市町村の合併が円滑に進められるように，国の配慮がなされたのです。

大館市と花矢町の関係をみた場合，交通，経済，社会など，いろいろな点で緊密なつながりがあることは誰れしもが理解しているところであります。

まず，両市町民は地勢的条件の中で共通した経済意識のもとに生活を営んでいること，交通の便利さからくる消費生活の関連性，さらには，通勤通学者の本市への集中等からみても，いかに同じ生活圏下にあるかがおわかりのことと思います。

このたびの合併は，こうした類似点を多く持つ両市町民の調和により，広域的な視野にたって，行政水準の向上をはかりながら，8万市民の福祉向上をねらいとするものです。

合併に至るまでの経緯

1. 合併協議会設置までの経緯

以上の観点から以前から合併問題が両市町の間で話題になっていたのですが，その突破口を開いたのは，さる9月13日に開かれた，両市町議員による広域行政に関するこん談会であった。

席上，両市町の早期合併についての発言があり，この発言を機に本格的な合併促進ムードが台頭したわけです

さて，合併ムードの盛り上りによって，こん談会が開かれた4日後，両市町の首脳部と知事との会談が市役所で行なわれました。いわゆるトップ会談とでもいえる。この会談には，市からは，石川市長，太田部議長，花矢町からは，山本町長，安部議長が出席し，小畑知事をまじえ合併について意見を交換した。（写真右）

この会談では，花矢町の要望が主に話され，継続事業の問題，白沢営林署存続問題等については，知事から厚意ある回答を得，その他の問題についても5者間の意見が一致した，と発表された。

そのご，両市町の合併ムードは日増しにもり上がり，市においても合併事務促進の打合せ会を開らいたり，市議会全員協議会で検討するなどして，合併促進のため積極的な取り組みに入ったわけです。

そして，10月2日，ついに両市町の公式的な話しあいの場である「大館市，花矢町合併協議会」が両市町の議会で可決され，石川市長を会長とした両町あわせて69名の協議会が正式に発足し，具体的な検討に入ったのです。

2. 合併協議会での協議事項

合併協議会の構成は，総員69名でこの内訳は，

花矢町 ＝ 町長，議員25名，学識経験者3名，職員5名，計34名

大館市 ＝ 市長，助役，議員25名，学識経験者3名職員5名，計35名

で石川会長を中心に，21項目にわたる諸問題を真けんに協議しました。

（協議会の開催日程）

第1回―10月12日　第2回―10月18日
第3回―10月28日　第4回―11月4日

以上，4回にわたった協議会は，終始なごやかなムードにつつまれた中で話しあいがなされ，つぎのとおり意見の一致をみたのです。（紙面の関係上一部省略）

⊛合併の形式＝編入合併

⊛**議会議員**＝合併の特例に関する法律を適用し，花矢町の議員は全員大館市の議会の議員として在任する。

⊛**農業委員会の委員**＝花矢町農業委員会の選挙による委員は全員大館市の農業委員会の委員として在任する。

⊛**特別職の職員**

(イ)教育委員――花矢町の教育委員会を廃止し，委員については特別な救済措置はとらない。

(ロ)**選挙管理委員**――花矢町選挙管理委員会は廃止する

(ハ)**監査委員**――大館市の定数は，議会選出および学識経験者各1人となっているが，学識経験者1人を増加し，定数3人とし，花矢地区から選任する。

(ニ)**選任による農業委員**――花矢町の農業委員会は廃止する。選任による委員については特別な措置はとらない。

(ホ)**固定資産評価審査委員**――花矢町の委員会は廃止する。委員については特別な措置はとらない。

⊛**一般職員**＝花矢町の全職員を大館市の職員として引きつぐ。給料，手当等の待遇は低下をきたさぬようにする。

⊛**税**＝

(イ)民税―花矢地区については，不均一課税をするものとし，個人の均等割は42年および43年度から3か年度は現行の200円とする。

(ロ)法人均等割―現行どおりとする。

(ハ)国民健康保険税―民税と同様，3か年間は現行どおりの割合とする。(ニ)その他の税―42年度は現行どおりとし，43年度から大館市の税率とする。

⊛**合併後の機構**＝現在の花矢町役場を支所とし，矢立支所を矢立出張所とする。また，支所，出張所で扱う窓口事務は現行どおりとする。

⊛**財産**＝一切の財産は大館市に引きつぐものとし，一切の権利義務も大館市に承継するものとする。ただし町

有の山林，原野等についてはつぎのとおりとする。

(イ)鉱山貸付地のうち，現在鉱山で使用している部分および使用地の近接地で，近い将来使用見込みの部分約100ヘクタールは鉱山に売り渡しする。

(ロ)町直轄林

○基金条例を設定し，収入金を充当する分 210.82ヘクタール。

○長寄りの部落に無償で払下げする分 16.36ヘクタール。

(ハ)各部毎に生産利用協同組合を結成させ，これに所有権を移転する分，1,934.22ヘクタール。

⊛**消防団および消防施設**＝消防団については，花矢町地区をもって地区隊を設け，団長以下現在の消防団員全員を大館市の団員とする。また，各分団配置等については現行どおりとする。

⊛**小中学校の学区**＝花矢町の学区をそのまま大館市の学区とする。

⊛**教育施設**＝現有施設は現行どおり存続する。ただし公民館は花矢町公民館を地区館とし，白沢分館はそのままとする。

⊛**厚生施設**＝保育所，診療所，じんかい焼却場等は現行どおりとする。

⊛**公共団体**

花矢町農協は私来，大館市農協に合併するようにつとめる。

⊛**継続事業**＝花矢町において予算に計上し，実施中または計上している事業で，未完のものは大館市に引きついで完了させる。

⊛**協定事項および要望事項**＝協定事項については履行する。要望事項については，その趣旨にそい，実現につとめる。

3. 合 併 の 議 決

花矢町側の要望を十分に組み入れた中で，合併協議会における協議事項も円満に解決し，それぞれの議会にはかる機運までに至った。

まず，花矢町臨時議会は11月10日。そして，13日には本市の急施臨時市議会が開かれ，

「町を廃止し，市に編入する処分を知事に申請することについて」

「町を廃止し，市に編入することに伴う財産処分の協議について」

「町を廃止し，市に編入することに伴う経過措置に関する協議について」

の3件を両市町議会とも賛成多数で可決し，ここに懸案の合併問題に終止符をうったのであります。この両市町の議決によって，24日開かれた県議会の議決をもとに知事が処分しこれを自治大臣に申請，官報の告示によって12月21日待望の新大館市が正式にスタートすることになるわけです。

あすへの構想

さて，合併による新市の設計図を紹介してみよう。

市と花矢町との間で作成された「大館市建設計画書」は産業，教育，建設等に，多岐にわたる具体的な方向がうちだされている。紙面の関係で具体的にお伝えすることができないのは残念であるが，今後の広報紙で順次お伝えしご理解を得たいと思う。

まず，新市建設の基本方針であるが，「地下資源の開発と豊富なな農林生産を基盤とした鉱，工，商業の発展による経済の充実強化と，住民の生活水準の向上を中核とし，道路交通網の整備等により，住民の協和と福祉の増進を図る」，という方針のもとに，具体的な未来像をえがきだしている。

財政計画については，今年度から47年までの推計がだされこの計画年次別の才入総額はつぎのようになる

42年度　16億6.012万7.000円
43年度　17億7.761万1.000円
44年度　19億6.917万5.000円
45年度　22億3.104万2.000円
46年度　25億5.814万円
47年度　28億9.598万8.000円

このような大型予算のもとで計画された事業は多彩なものがあり，年次別のおもなものとしては，

42年度＝住宅建設・大館駅，東大館線街路・前田児童公園・花中校舎改築・城南小改築事業ほか11事業

43年度＝公園の新設・消防施設の整備・林業構造改善・本郷簡易水道布設・学校給食共同調理場新築・農業構造改善事業など25事業。

44年度＝公営住宅建設・花岡幼稚園舎改築・林業構造改善・公園新設事業など21事業。

45年度＝小中学校プール新設・公営住宅建設・公園新設・二井山地区簡易水道事業など19件

46年度＝公営住宅建設・一般林道新設・橋桁地区簡易水道布設・公園新設事業など17事業。

47年度＝小中学校プール新設・公営住宅新設・小中特別教室増設・消防施設整備・都市計画事業・林道事業等など11事業。

以上はほんの一部でしかすぎないが，この建設計画書では，多くの単独事業のほか病院，観光，交通等にも意欲的な計画をたて，8万市民の幸福に向けて，計画の実現を約している。

ひとりひとりが幸福になるためには，皆んなで手をとりあい，大きな力で未来への夢と希望を持とう。この第一歩が今年実現されたのです。住民福祉の向上を第1目的とした大館市の建設をめざして……